

実践編

あたらしい 町内会へ



はじめに

地域の暮らしを支えるための活動に日々取り組んでいる町内会。

札幌市の町内会では、町内会運営に携わる役員や活動の担い手不足が課題になっています。

町内会は、地域の中で新たな担い手を探すことが求められている一方で、住環境や生活スタイルの多様化などにより、若い世代をはじめ地域住民の顔が見えにくくなっている現状もあります。

そのような状況で「若い世代を巻き込んでいくことは困難である」という声が多く聞かれますが、実は若い世代も参加の意向がないというわけではありません。「情報があれば参加したい」「出来る範囲でお手伝いしたい」といったように地域貢献の意識や地域への愛着を持っている方も多くいるようです。

札幌市内には地域の若い世代をはじめ、事業者や団体など、地域の「人材」や「資源」にも目を向けて連携し、活性化を図っている町内会もあります。

この冊子では、若い世代をうまく町内会の活動に巻き込むための手法や考え方、町内会の事例やその工夫点などを紹介します。

地域によって世帯数や住んでいる方々の世代、戸建てや集合住宅の割合など現状はさまざまですが、ご自身の地域に当てはめて応用いただき、少しでも多くの町内会のみなさまの課題解決の後押しとなることを願っています。

- ・平成29年度発行の冊子「あたらしい町内会へ」では、若い世代の地域活動に関する意向などを取りまとめました。
- ・本冊子では、その実践編として、若い世代をうまく巻き込んでいる町内会の事例や手法についてご紹介しています。



平成29年度 冊子「あたらしい町内会へ」



INDEX

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	01
INDEX ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	02
若い世代をうまく巻き込んでいる町内会とは・・・・・・・・	03
町内会を少し変えよう！変わろう！・・・・・・・・	04
若い世代とつながるきっかけ～事例紹介～・・・・・・・・	05
若い世代とつながる～実践編～ 1 直接声かけ・・・・・・・・	07
2 アンケートで人材発掘・・・・・・・・	09
3 参加から参画へ・・・・・・・・	11
アンケートで人材発掘～中央区旭山町内会～・・・・・・・・	15





若い世代を うまく巻き込んでいる 町内会とは



札幌市には、現在、2,194の単位町内会があり（平成31年1月1日現在）、それぞれの町内会・自治会では、さまざまな工夫を凝らしながら町内会活動が活発に進められています。

しかし、少子高齢社会をはじめとする社会情勢の変化やライフスタイルの多様化などに起因して、札幌市の町内会では「担い手確保」と「加入率の低下」が大きな課題となっています。

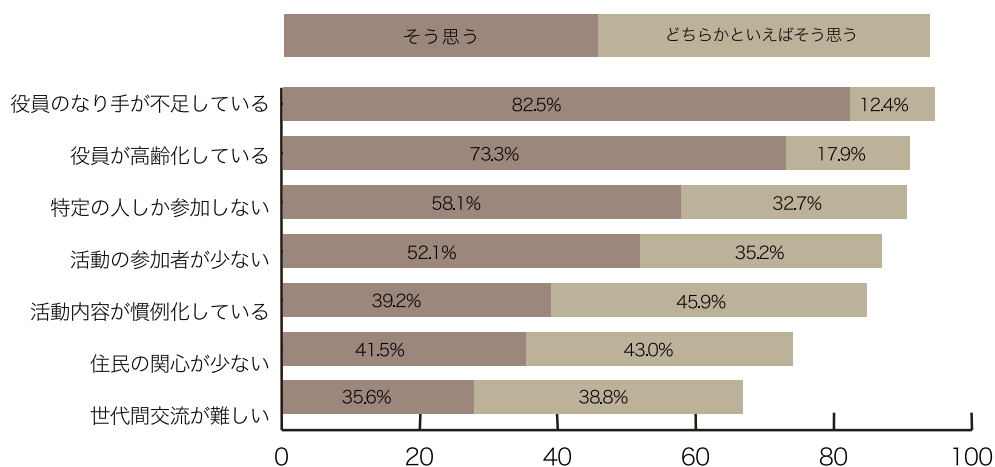
特に、札幌市内の町内会にご協力いただいたアンケートによると、町内会活動において、「役員のなり手不足」や「役員の高齢化」、「特定の人しか参加しない」など、活動の担い手不足が課題となっています。

一方で、札幌市内には町内会の活性化に向けて、これまで参加の少ない“若い世代”を巻き込み、時代に対応した改善が進められている町内会もあります。

そのような町内会では、若い世代が町内会に関わりやすい「仕組みづくり」や、住民の町内会への信頼感を高め、「参加意識を醸成」するための取組を行っています。

このように、若い世代が参加しやすい新しい町内会にしていくために、時代に合わせて変わっていくことが求められます。

■町内会の活動を行っていくうえで、課題となっていること(複数回答)



出典：町内会・自治会に関するアンケート調査結果（平成28年3月）を編集

町内会を少し 変えよう！変わろう！

若い世代に活動に参加してもらい、あるいは担い手になってもらうためには、町内会が時代や住民のニーズに合わせて変わっていくことが求められます。

それでは、若い人が参加しやすい町内会とは、どのような町内会なのでしょうか・・・？「若い世代の声」から、そのヒントを見てみましょう。

若い世代が参加しやすい町内会のイメージ

「大変そう」
「負担感がある」
のハードルを
下げる

- ・町内会からアプローチがある
- ・会員以外の参加も受け入れる
- ・参加のメリットがある

参加
しやすい
雰囲気
がある

- ・子連れでも会議などに参加できる
- ・顔見知りの関係がある
- ・やっている人たちが楽しそう

時間や
条件を若い人に
合わせる

- ・意見を受け入れてくれる
- ・会議等の時間・曜日に配慮がある
- ・初参加でもしっかりと説明してもらえる
- ・役割が明確になっている

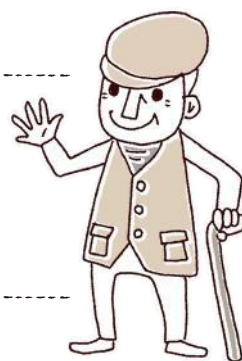
若い世代
にも届く
情報発信・
共有を行う

- ・情報発信にFacebook(フェイスブック)などのSNS、連絡手段にLINE(ライン)やメールが活用されていると参加しやすい

(参考)平成29年度 冊子「あたらしい町内会へ」(発行：札幌市)



町内会は地縁型の組織。そのため、
地域から若い世代を見つける
必要があります。



- ・役員の担い手は、基本的に地域の中から発掘することになります。
- ・人口減少や高齢化が進む中で、役員が普段から世代交代を意識し、人材を発掘するとともに人材育成を行わないと、担い手が不足します。
- ・人材の発掘の際は、住民だけでなく、地域で活動するグループや企業(事業者)、学校などに目を向けてみるのもよいかもしれません。

では、地域で担い手を発掘する方法を
事例とともに次ページ以降でご紹介します→